

# とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2016.4 April vol.35

二月定例議会

## 島根県民が主体となる政治に

### アベノミクスは地域経済には波及効果なし

2月18日から3月16日までの28日間、二月定例議会が開かれました。今回の議会では、28年度予算や二月補正予算、法令等の改正による条例改正案など知事提案83件、議員提案2件が上程され、全て可決されました。また、会派を代表して登壇し、知事の政治姿勢や、新年度に取り組まれる地方創生に係わる事業などについて質問しました。

#### 知事の政治姿勢

知事は安倍政権の経済政策に島根の現状と照らし合わせ、どのような所感をお持ちか。

知事 都市部と比べ、島根ではアベノミクスの効果は、特に中小企業・小規模企業において十分に実感できていない状況が続いている。国においては、世界経済の状況をよく注視しつつ、幅広い分野、業種において経済成長を実現し、家計や中小企業、地方経済にも景気回復の効果が波及するよう、全力を挙げて取り組んでいただきたい。

#### 女性の活躍推進

今後の女性登用の目標とその実現に向けた考え方について知事の所見を。

知事 管理職候補であるグループリーダー級の職員に占める女性の割合は、現在で11%くらい。こうした状況を踏まえ、当面の目標として、女性管理職の登用割合は12%程度が考えられる。

意欲と能力のある女性職員を積極的に登用していくことは、組織の活性化や施策の推

年度中途入所に備えた保育士確保対策

健康福祉部長 来年度から年度途中の入所希望に積極的に対応する保育所に対して、県単独で待機児童ゼロ化事業を創設する。具体的には、保育所が入所定員をふやし、配置基準以上に保育士を配置した場合に、新規に受け入れ可能な児童(ゼロ歳児)の人数に応じて、保育士の人件費を月額20万円を上限として助成をしていく。

知事 健康福祉部長の答弁は、来年度から年度途中の入所希望に積極的に対応する保育所に対して、県単独で待機児童ゼロ化事業を創設する。具体的には、保育所が入所定員をふやし、配置基準以上に保育士を配置した場合に、新規に受け入れ可能な児童(ゼロ歳児)の人数に応じて、保育士の人件費を月額20万円を上限として助成をしていく。



進のためにも重要と認識しており、引き続き努力していく。

#### 障がい者の雇用促進

知的障がい者の採用についての県の状況と、正職員としての採用について

総務委員会所管事項調査 12月14日に総務委員会所管事項調査として、ふるさと定住財団と島根県消防学校の調査を行いました。

#### ふるさと定住財団

県内へのUターンに取り組みふるさと定住財団では、若者の県内就職促進のための情報提供、キャリア形成、企業理解の場の創出、Uターン



ふるさと定住財団から意見聴取

の促進のための定住総合情報提供や希望者の受け入れ、活力と魅力ある地域づくりの促進に地域の活性化を担う人たちの連携支援などを行っています。

定住希望者の定住目的は多様ですし、受け入れ側の体制も様々な中で、どううまく合わせていくか、そうした取り組みに努力しておられる財団です。定住財団の取り組みが、地域の活気を作っています。

#### 島根県消防学校

消防学校では消防士や消防団員の育成に取り組まれています。最近では住居から離れた



消防学校での訓練

とところで仕事をすることが多い中、消防団員の担い手確保に各市町村は苦慮しており、消防学校でも、宿泊研修を一日の研修にしたり出前講座にしたりしながら確保に努めています。意見交換の後に、消火活動訓練を見学しました。今年完成した消防活動訓練棟で、一般住宅での火災を想定した訓練がされ、要救助者の救助活動や消火活動を見学しました。こうした訓練が地域の防災につながっています。

#### 県立大学浜田キャンパス

2月2日には、県立大学浜



県立大学内を見学

田キャンパスを訪問し、本田雄一学長はじめ大学関係者の皆さんから、グローバル化していく中において、国際的な視野のもとで考える力を身につけていくこと、北東アジア研究を中心に研究成果を地域に還元することを主眼として取り組みについて説明を受けました。

地域人材を育てる大学として、県立大学の県民に果たす役割は大きいです。

健康福祉部長 来年度から年度途中の入所希望に積極的に対応する保育所に対して、県単独で待機児童ゼロ化事業を創設する。具体的には、保育所が入所定員をふやし、配置基準以上に保育士を配置した場合に、新規に受け入れ可能な児童(ゼロ歳児)の人数に応じて、保育士の人件費を月額20万円を上限として助成をしていく。

#### 保育士の職場定着について

保育所経営者の理解を深めるための県の取り組みを聞く。

#### 健康福祉部長 職員のキャリアアップのための研修機会の提供、役職や経験年数に応じた適切な給与等の処遇、休暇や福利厚生制度など勤務環境の改善などについて、経営者がしっかりと意識を持って取り組まれていることが必要。現在、保育所経営者を対象として人材の定着支援のための情報提供や研修会の開催、専門家による相談やアドバイザー派遣などを行っている。今後、保育所の経営者と連携しながら、保育士の皆さんが誇りとやりがいを持って働き続けることができる職場づくりを進める。

#### 児童クラブの処遇改善を

児童クラブの支援員確保と処遇改善についての取り組みを聞く。

健康福祉部長 平成26年の全国調査によると、放課後児童クラブの支援員の年収は平均で130万円に満たない状況。これは、支援員の人件費の国の補助単価が、非常勤を前提として積算されていることが大きな要因である。放課後児童クラブのニーズが高まる中、支援員には今後ますます専門知識や技能が求められるので、その職責に見合う賃金水準となるよう、国に制度の充実を要望していく。

#### 医療・介護の人材確保

医師、看護師、介護職員の確保に当たっては、処遇改善や職場の環境改善などの取り組みと今後について聞く。(裏面へつづく)



## とまちゃん通信

発行者 角 智子 〒690-0063 島根県松江市寺町67-23  
TEL. (0852) 28-8880 FAX. (0852) 28-8881  
E-mail sumi@tomachan.net  
U R L http://www.tomachan.net/

### 健康福祉部長 人材確保の取り組みとして、介護職場では全国的に賃金水準が低いことから、介護報酬が昨年4月に改定をされ、介護職員処遇改善加算が1.65%引き上げられた。県では、この制度を使って職員の賃金が実際に上がるよう、事業者に対して周知と呼びかけを図っている。

医療機関では勤務環境が厳しいことから、昨年4月に医療勤務環境改善支援センターを県の中に設置して、各医療機関の管理者が勤務環境の改善に自主的に取り組む際の相談、助言などを行っている。

このほか、医療、介護両方で、一定期間勤務すれば償還を免除する修学資金の貸付事業に取り組み、新年度からさらに看護学生修学資金の中で過疎地域、離島枠を創設して事業を拡充する予定。

国の事業も活用しながら県内の医師、看護師、介護福祉士等の確保に向けて積極的に取り組んでいく。

### 民主県民クラブ県内調査

### 雲南・松江地域でがんばる取り組み調査

雲南・松江地域を中心に県内調査を3月17～18日の2日間行いました。

### 地域特性を生かし 地域に生きる

雲南市にある「食の杜」は、自然に逆らわず、安心して食べられるものを作りたいという思いから農園を作り、そこでできた物を加工して提供する、六次産業化の取り組みをしています。有機栽培の畑からできたものを生食だけではなく、ブドウ園で栽培された

### 携帯・スマホなど メディア対策

携帯・スマホを中心としたメディア対策について積極的な取り組みを求める。

教育長 松江市の全ての小中学校では、利用時間の約束やフィルタリングの設定などのルールづくりが行われている。雲南市では幼稚園から小学校、中学校を通してメディアの利用時間を減らし、家族学習や読書の時間、家族団らんの時間をふやす取り組みを行っている。県教育委員会では、このような効果的な事例を他の市町村に情報提供することにも、子どもの成長、発達にメディアが及ぼす影響やその対策について学ぶことができるよう、学校や地域の要請に応じて専門家を派遣する取り組みも進めている。

このほか地方創生関連事業や、中核市移行に伴う保健所設置、教育の充実、農業対策、空き家対策などについて質問しました。

### ブドウからワインを作り、大豆から豆腐、お米からどぶろく、小麦からパンなどの加工をこで行っています。そして、農園や近くの山々を眺望



ぶどう園が広がる食の杜



新病院の建設状況を聞く

できるレストランでそれらの食材からできた料理を提供しています。ここではUターン、Uターンの若い人たちも働いており、地域の活性化につながっています。

次に、雲南地域の二次医療を担う雲南市立病院を訪問し、ここでの総合医の取り組みについて伺いました。最近、テレビ番組「ドクターG」で様々な症状から病名を診断する総合診療について取り上げられていますが、診断後、どこでその治療をするのか、治療後どこでどういった形で過ごすのか、といったことまで診ていくのが総合医です。「専門医とかがかりつけ医とを繋ぐ、橋渡し」をしていくのが総合医であり、医師の守備範囲の中でできることを雲南病院で取り組み、地域医療を担っています。

また、地域包括ケアの取り組みや新病院建設の状況などもお聞きし、一部工事が終わっているところなども見学させていただきました。奥出雲町に移動し、三成発電所に出かけ、県企業局の小水力発電事業について聞くとともに、土木遺産に選ばれた三成ダムを見学しました。再生エネルギー固定価格買

### 取制度の対象の発電所として、老朽化している施設のリニューアル化が計画的に進められています。三成発電所もその一つで、平成30年度までの計画で事業費14億円余の事業が進められています。この発電所の水を確保す



土木遺産の三成ダム

るのが三成ダムです。昭和29年に竣工したこのダムは、わが国初の本格的アーチダムで希少性が高いということから土木遺産に選ばれています。

それぞれ地域の資源を生かした取り組みが地域の生活を支えています。

### みなさんと意見交換

### 働く女性の課題解決に

3月1日、働く女性たちとの意見交換会を行いました。彼女たちからは保育所の問題、特に子どもを保育



働く女性の皆さんと意見交換

### 子育て家庭への支援

2日目は、松江市に移動し、クリニックを併設して病児保育を行う「つわぶきこども園」を訪問しました。この保育園の理事長は、松江市の障がい児保育に長くかかわってこられた石井尚吾先生です。先生の理念を実現しているのが「つわぶき保育園」で、その2つ目が「つわぶきこども園」です。児童発達支援センターも併設され、障がいがある子もいない子も一緒になって育つ環境ができています。また、センターでは相談事業も行っており、子育て家庭への大きな支えとなっています。

病児保育は小児科の先生が常時いることで、病気の子どもを安心して預けることができます。核家族化が進み、また子どもの祖父母世代も共働きが多くなってきた今日、子どもが病気になることから言ってしまう仕事は休むことができない人々にとっては安心な子育て支援であり、病所に預けたくてもすぐには入所できない現状と解決に向けての対策、親の介護が必要になった時にどう対応したらいいのかなど介護の課題などについて意見交換しました。

### 地域の皆さんと意見交換

2月25日、議会傍聴に来られた皆さんと議会終了後、意見交換会を行いました。初めて県議会を傍聴した感想や、質問についての意見などをお聞きするとともに、私からも、質問内容の解説や県議会について説明しました。



子どもの療育を行う児童発達支援センター

児保育は今後もさらに必要な事業です。

また、児童発達支援センターでは、作業療法士、理学療法士、言語聴覚士などの専門職を配置していますが、こうした職員の配置基準がないため補助金の単価が低く、専門職に見合った賃金を支払うことが難しいとのことでした。県内ではこうした職員を養成する学校がありますが、そこで学んだ人たちが働く場を確保する意味でも処遇改善の取り組みが必要です。



議会傍聴後、皆さんと意見交換

これからも、皆さんのご要望に合わせて意見交換や議会傍聴会を行いたいと思っておりますので、希望される方は事務までご連絡ください。連絡先 Tel: 28-8880